

この学校にわたしたち

2023. 6. 30

N017

心の揺れと“情”の教育



ハツ山小に赴任して1年余。それまでは、草木や風など自然のちょっとした変化にも全く気づかない生活を送っていましたが、最近、ハツ山の木々、風、雲など様々なことに心を動かされ、写真を撮りたくなることが多くなりました。先日は、三日月と金星、昨日は雲の形…。

「『この味がいいね』と君が言ったから7月6日はサラダ記念

日」の歌で有名な俵 万智さんは「心の揺れ」が歌を詠むエネルギーだと言います。私は芸術家ではありませんが、ハツ山の自然の美しさが私の心を変えてくれたのだと思います。何気ない平凡な毎日であっても心の感度次第で、毎日の彩が変わってきます。心理学で知情意という言葉を使います。知=知識、情=感情、意=意識・意欲のことですが、情を育てるためには①良書に親しむ、②絵画や音楽を鑑賞する、③自然体験を多く行う…など様々ありますが、何より周りの大人からの情的な言葉がけ



も大切だと言われています。私も我が子に対して反省することばかりですが…。例えば、子どもが家に帰って来た時、「おかえり。宿題してね。」と要件を伝えるのではなく、「おかえり。暑かったですよ。冷たいものが冷蔵庫にあるよ。」と言ってあげる方がよいと言われています。これだけに限らず、ふとした時に「涼しい風が吹いてきたね」「虫の音がきれいだね」など大人が感じたことを言語化して子どもたちに聞かせるだけでもいいでしょう。最近、テレビでは連日のように人として想像できないような事件が報道されていますが現代の子どもたち(ハツ山小のことではありません)が情というものが十分に育っていない子も増えてきているのではないかと気になっています。

いつもの校長先生にもどった…

プール水泳が始まり、朝、プールの水質・水温・気温の測定や機械の確認などのため、半そで半ズボンで校内をうろうろすることが多く、久しぶりにワイシャツ・スラックスで校舎を歩いていたら「いつもの校長先生にもどった」と言われました。子どもたちは服装も含めて細かくみているんだなあ気づかされ、言動についても気をつけなければならぬと思いました。